

JCI TC101A 【微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法
調査研究委員会】

第2回 主査・幹事会 議事録（案）

議事録担当：堤

■日 時：2011年2月18日（金）15:00～16:40

■場 所：日本コンクリート工学協会 12階 第2会議室

■出席者：二羽委員長，安田副委員長，堤幹事長，田村 WG1 主査，鎌田 WG2 主査，岩波
WG3 主査
(事務局) 川上 以上7名（敬称略）

- 資 料：1 第1回主査幹事会 議事録
2 第3回 WG1 議事録
3 WG1（耐久性推移）の活動概要
4 第2回 WG2 議事録
5 非/微破壊試験技術の現状と課題整理部会(WG2)第2回部会向けメモ
6 第3回 WG2 議事録
7 土木学会 コンクリート委員会 コンクリートの非破壊評価技術の信頼
性向上に関する研究小委員会(339委員会) 非破壊評価技術の信頼性と標
準化検討 WG の成果の概要
8 土木学会 コンクリート委員会 構造物表面のコンクリート品質と耐久
性能検証システム研究小委員会(335委員会), 歴代構造物品質評価/品質検
査制度研究小委員会(216委員会)および検査・点検マニュアルの概要
9 幹事会資料（補修・補強の現状調査と課題整理部会 WG3）
10 研究委員会活動報告(私案)

■議 事：

1. 各 WG の活動報告と今後の取り組み

資料1～9に基づいて各 WG の活動報告がなされた。報告内容については了承された
今年度の取り組みについて、決定事項は以下のとおり。

- ・WG1：これまでに、大阪市の橋梁点検要領，事業者の維持管理マニュアル（NEXCO，JR，港湾，電力，UR 都市機構）および建築物の外壁全面補修工法ヒアリング結果などを収集・分析した。今後，これらの資料から各事業者は何に注目しながら維持管理を行っているかを抽出するとともに，時代的変遷による対策手法・技術の変化，ならびに WG3 で検討中の補修・補強の実態との対比を行うことで，現状の維持管理マニュアルの進展性を明らかにしていくこととした。

- ・WG2：当 WG 活動において非/微破壊試験に関する情報を精査した結果，文献や各団体の委員会活動毎に情報が分散していることが判明した．これらの情報や相互の関係，文献リストなどをまとめて整理したものは非/微破壊試験の活用を考える上で有意義な情報となるため，今年度はこの方向で活動することを確認した．

- ・WG3：これまでに，施工実績および既存文献を基に，鉄道，電力，建築，港湾関係の補修・補強事例を収集，分析した．この結果
 - ◇加速期，劣化期に入ってからの方策が多い．
 - ◇複合劣化の場合，対策がいずれかの要因に偏る場合がある．
 - ◇非/微破壊試験を活用し，予防保全的な対策を行っておけば，LCC 低減ができたと思われる事例がある．ことなどが明らかとなった．これらの結果を踏まえ今後の取り組みとして以下の方向が示された．
 - ◇進展期，加速期をもう少し細かく分類し，非/微破壊試験の活用方法を示す．
 - ◇非/微破壊試験を実際に活用している事例を収集する．

- ・今後の取り組み：引き続き，各 WG の目標に従い，検討を進めていく．来年度は，今年度の各 WG 成果を踏まえ，幹事団＋各部会からの代表者で構成される WG4（活動提案部会）を立ち上げ，一連の維持管理業務の中で，部材中の劣化箇所の位置的なばらつきを考慮した健全性評価や LCC 低減に寄与する非/微破壊試験の活用方法の提案について検討を行い，本委員会としての提言を目指すこととした．

2. 2月28日の研究委員会報告について

堤より28日の研究委員会報告(私案)が提示され，各WG主査の意見を踏まえた修正(案)を二羽委員長に送付し，最終案を作成していただくこととした．

以 上